

胎内市租税教育推進協議会長賞

税の大切さ

胎内市立 黒川中学校 三年 近 愛 梨 さん

「すみません、〇〇まではどうやって行けばいいのですか？」

これを聞くだけでお金をはらわなくてはならない。交番の方も仕事として道案内をしてくださっているので“これだけ”という表し方はいけないかもしれない。しかし、そんな世の中、どうだろうか。これに関わってくるのは、税金の有無だ。

今、中学三年生の私の生活では税金をはらうところは少ない。しかし、税金のおかげで私は生活できている。なぜなら、学校の教科書、校舎、体育館設立、プール、除雪。他にも数えきれないほどたくさん税金によって支えられている。あとは、特には初めにも言ったように、警察、消防、医療関係。

医療関係で言うと、実体験がある。私自身ではないが、お父さんのことだ。私が小学六年生のとき、お父さんは車庫で道具整理をしていた。私の家は農家なのでそれ関係のものがたくさんあった。私とお母さんは家の中にいた。すると、「タオル持ってきて！」

「早く」お父さんが頭を抱えながら玄関に立っていた。なにが起こったかわからないままお母さんがタオルを渡した。「え、どうしたの」私が聞くとお父さんは「…いやー、どうしょ」と、顔をしかめながら言った。そのときお父さんは、田植えで使う“いぶり”というフォークの拡大版みたいなものが頭に落ちてきてささった、と言った。お父さんは救急車を呼ばなくていいと言った。しかし、私は、これから病院に行く間に合わない、そう思った。そう考えているうちに真っ白なタオルが赤く染まっていた。「お母さん、119！早く！」電話して数分、救急車が来た。幸い、お父さんの頭の傷もすっかりきれいになった。私は救急車を呼んでよかったなと心から思う。

しかし、それがどうだろうか。そのときのことしか考えず、税金なんていらなーい、という世の中になっていたら。救急車を呼ぶことにもお金がかかったら。お父さんは助からなかったかもしれない。

そんな出来事もふくめて、今、聞いてくださっている一人一人に伝えたい。税金の大切さを。必要性を。今は、そのときは、10%の税金をいらないと思っても、必ず、私もあなたも支えられているんだから。そして、あなたのその10%が誰かを助けているから。

そのことを、覚えていてください。